実践発表

別紙様式（実践発表用）

小・中・高等学校道徳教育実践研究事業

豊かな心と主体的に生きる力を育む道徳教育の創造
～かかわりあい　ひびきあい　高まりあう児童生徒の育成を通して～

庄原市立東城中学校区
（庄原市立東城小学校）

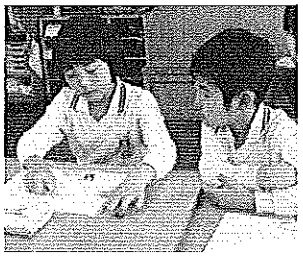
はじめに

東城推進地域には，中学校１校と小学校４校がある。庄原市の北東部に位置し，山に囲まれた豊かな自然，歴史と文化の町という恵まれた環境にある。小学校４校は地理的にも非常に広範囲であり，学校規模も１学年数人で複式学級を含む学校から，１学年２クラスという中規模の学校まで様々である。

本地域では，これまで小中学校間・小学校間で体験活動等を合同で行ってきた。そして，一昨年度より，生徒指導と家庭学習の定着を共通のテーマとして，連携をしながら取組を進めてきた。しかし，東城町内の児童生徒の共通した課題を整理し，課題解決に向けた連携を行うまでには至っていなかった。

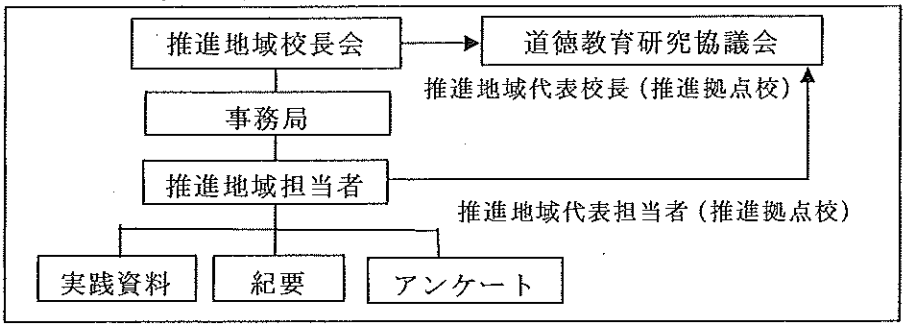
本地域では，小規模の小学校においては，人間関係が固定化することと主体的･積極的に行動することに苦手意識をもっているという課題が見られる。中規模の小・中学校では，基本的な学習・生活習慣が確立していないこと，自分の役割や責任を十分果たすことができない等に課題が見られ，中学校では自己肯定感が低くなる傾向がある。多様な環境から中学校に入学する生徒間では，新しい人間関係づくりが求められ，特に中学校への適応及び生徒指導上の課題も見られる。

そこで，本地域におけるめざす子ども像を「自分を愛する心をもつ子」「人を愛する心をもつ子」「地域を愛する心をもつ子」とした。 そして，めざす子ども像の実現に向け，研究主題を「豊かな心と主体的に生きる力を育む道徳教育の創造 」とし，サブテーマを「かかわりあい　ひびきあい　高まりあう児童生徒の育成を通して」とした。そして，次の４つの研究内容を設定し，取組を進めてきた。



１　研究の特色
（１）小中連携教育の推進体制の確立
①小中が連携した道徳教育の体制づくり

１つ目は，研究推進体制の構築である。東城中学校区では，５校の共通した課題を整理し，解決に向けて共有化を図っている。そして，義務教育９年間を見据えた研究推進をすることを通して児童生徒の豊かな人間性と自立心の育成を目指している。中学校区が一体となって研究を進めるために，研究推進体制を次のとおり構築した。



推進地域の校長と事務局，担当者が集まる道徳教育研究協議会において，東城町内の児童生徒の課題を明らかにし，本研究をスタートさせた。また，「実践資料集」及び「研究紀要」の作成，そして「アンケート」の分析等をこの協議会で行った。

②小・中学校における発達の段階ごとの課題の分析と育てたい子どもの姿の設定

東城町の小・中学校における子どもの課題から，下図のように「自尊感情」「思いやり」「郷土愛」の３つの項目において，小学校低学年，中学年，高学年，中学校の４つの段階での育てたい子どもの姿を明確にし，９年間を見据えた系統的な取組を進めることとした。

自分を愛する心をもつ子・人を愛する心をもつ子・郷土を愛する心をもつ子

	自尊感情	思いやり	郷土愛
中学校	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し思いやりの心をもつ。	地域社会の一員として，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に尽くそうとする態度をもつ。
小 高学年	自分の特徴を知って，悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする。	郷土や日本の文化・伝統を大切にする先人の努力を知り，郷土や国を愛する心をもつ。
小 中学年	自分の特徴に気付き，よい所を伸ばす。	相手のことを思いやり，進んで親切にする。	東城の行事に進んで参加し，東城の人々や文化に親しもうする心をもつ。
小 低学年	自分のよい所に気付く。	幼い人や高齢者など身近な人に温かい心で接し，親切にする。	東城の文化や生活に親しみ，愛着をもつ。

③小・中学校の児童生徒の交流

地域として道徳教育を推進するため，教員の交流だけでなく，児童生徒の交流も行っている。写真１は，東城町クリーン大作戦を行ったときのものである。これらの体験活動を道徳の時間と有機的に関連させ，より効果的に道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図ってきた。今年度は，「心の元気を育てる地域支援事業」の指定も受け，道徳の時間で体験活動を生かすことができるよう，児童の発達の段階等を考慮して計画に位置付け実施している。

写真１

（２）共感する力や思いやりの心，協力し合う態度を育て，集団や社会の一員としての自覚と責任を育む道徳教育

２つ目の研究内容「共感する力や思いやりの心，協力し合う態度を育て，集団や社会の一員としての自覚と責任を育む道徳教育」を実現するため，道徳の時間の充実を図るよう，次のことに取り組んだ。

○同年齢の児童生徒の実話をもとにした教材や先人の生き方等を題材にした教材，児童生徒の心に響き，共感できる教材の活用とエンカウンターやゲストティーチャーの活用など，指導方法の工夫。

○道徳の時間の指導の一層の創意工夫と充実を図り，児童生徒の興味関心を高め，道徳的価値の自覚を深めるために，他学年，他学級の教員と協力しＴＴで授業を実施するなど，他の教職員との協力的な指導の実施。

○児童生徒の興味関心を高め，郷土への誇り，愛情を感じさせるとともに，地域のよさや課題を再認識させる機会を与える，東城の文化や伝統に関する題材の活用。

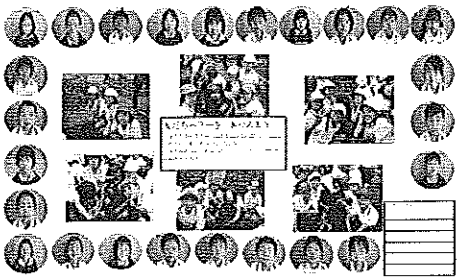
○ねらいに関する児童生徒の経験を問う事前アンケートをもとに，経験

を想起させる，資料につながる発問をする，写真・映像・歌などで興味関心をひきつける工夫をするといった，導入の工夫。

○多様な感じ方や考え方が引き出される，補助発問，ゆさぶりや切り返し発問，中心発問等の工夫。

○ペアトーク，グループトーク，全体交流等のかかわり合いや，構造的な板書，自己の考えを明確にする場の設定，ワークシートを工夫して書くことを取り入れるなどの取組。

○児童生徒が，道徳的価値を自分とのかかわりでとらえやすいように「東城版心のノート」を作成し活用してきた。小学校では，心のノートの言葉とともに，学級の友だちや授業の写真を入れて終末に児童に配布し，道徳の時間に考えたことや感想などを書き込むようにした。中学校では，心のノートの詩に中学校入学式の写真や，東城町出身のプロ野球選手の写真を入れるなど，道徳的価値を児童生徒が一層主体的に考えられるようにした。



（３）文化や伝統を大切にし，郷土や国を愛する心を育む道徳教育

３つ目の研究内容「文化や伝統を大切にし，郷土や国を愛する心を育む道徳教育」については，地域教材の作成（改善）と授業実践に取り組んだ。その際，ねらいを次の３点とした。

①地域に根ざした道徳教育を推進すること。

②地域のよさや課題を，児童生徒が再認識する機会を与えること。

③地域の担い手の育成を図るとともに，自分を成長させてくれた郷土への誇りをもたせること。

実践例として，小奴可の「大山供養田植」八幡の「野尻小左エ門」東城の「つなげ！母衣のバトン」「枥木のおじいちゃん」などがある。

また，広島県道徳教育指導資料「読み物教材例集・授業展開例集」を活用して道徳の授業を行ったり，「地域教材開発の手引」をもとに，地域教材を作成し，実践したりしている。

（４）道徳教育における各教科等と道徳の時間との関連的な指導の工夫

研究内容４つ目は，「道徳教育における各教科等と道徳の時間との関連的な指導の工夫」である。

東城町の３つの小学校が実践した。

八幡小学校・・・国語科との関連

小奴可小学校・・算数科との関連

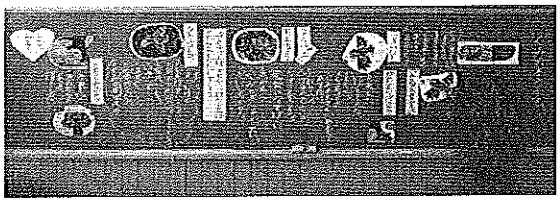
粟田小学校・・・生活科との関連・総合的な学習の時間との関連

２　実践事例

（１）小中における発達の段階ごとの課題の分析と育てたい子どもの姿の設定

昨年の１１月２２日の研究会では，「思いやり」について，低・中・高学年，中学校において，発達の段階を踏まえた授業提案をした。

低学年



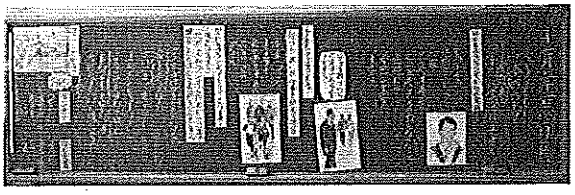
①学　年　第２学年

②主題名　「温かい心で」
２－（２）
温かい心・親切

③ねらい　嵐の中，りすの所に行く小鳥の気持ちを考えることを通して，身近な人に思いやりの心をもって接し，進んで親切にしようとする心情を育てる。

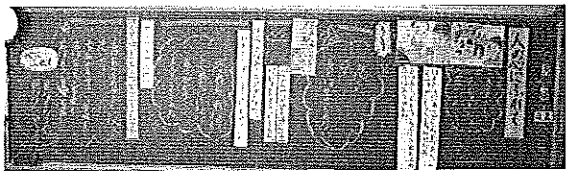
④資料名　「ぐみの木と小鳥」（光村図書）

中学年



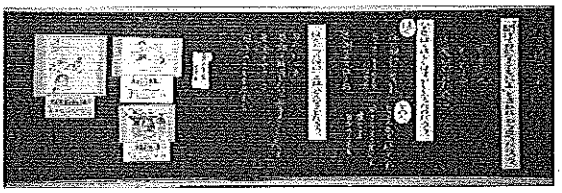
①学　年　第４学年
②主題名　「心から心へ」
２－（２）
温かい心・親切
③ねらい　気持ちよく走ってもらうことだけを考えて練習に励む伴走者の気持ちを考えることを通して，思いやりの気持ちをもち，相手の立場に立って行動しようとする実践意欲を育てる。
④資料名　「心を結ぶ一本のロープ」（学校図書）

高学年



①学　年　第５学年
②主題名　「温かな心」
２－（２）
温かい心・親切
③ねらい　「ぼく」の親切に対する思いを考えることを通して，だれに対しても温かな心をもち，相手の立場に立って親切に接していこうとする心情を育てる。
④資料名　「人の心にふれて」（学研）

中学校



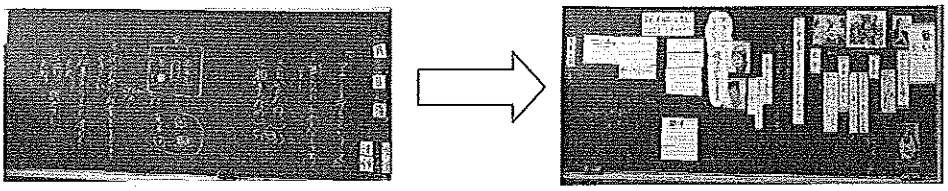
①学　年　中学校第３学年
②主題名　「相手を思う心」
２－（２）
温かい人間愛
③ねらい　次の人のためにドアを押さえてあげるという親切な行為を断られた「ぼく」の気持ちを考えることを通して，相手の立場を尊重したり思いやったりする心をもって人とかかわっていこうとする心情を育てる。
④資料名　「コンビニのドア」（生徒作文）

まず，低学年では，「相手に親切にすることのうれしさ，喜び」について考え，中学年では，「相手を思いながら親切にすることの大切さについて」考えた。また，高学年では，「相手にとって本当の親切とは何か」を考え，中学校では，「誰に対しても見返りを求めない親切」について考えた。発達の段階ごとに育てたい子どもの姿を共有することによって，授業のねらいを，より明確にすることができた。

（２）道徳の時間の授業の変容

小中連携をすることで，道徳の授業にも変化が見られた。中学校の道徳の授業では，チョーク１本で勝負していた板書から，場面絵や短冊カードを使った，視覚的に分かりやすく構造的なものに変わってきた。これは，小学校の授業を参観研修した成果と言える。

①構造的な板書



②ペアトーク

道徳の時間におけるかかわり合いを通して，自分に自信をもち，他者

やグループ交流

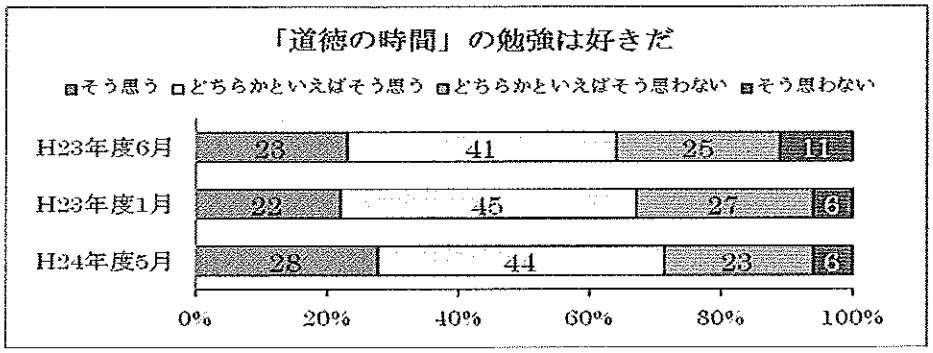
を受容する心情を育てるため，お互いの思いや考えを伝えあうことができるよう，ペアトークやグループでの交流を意図的に設定した。

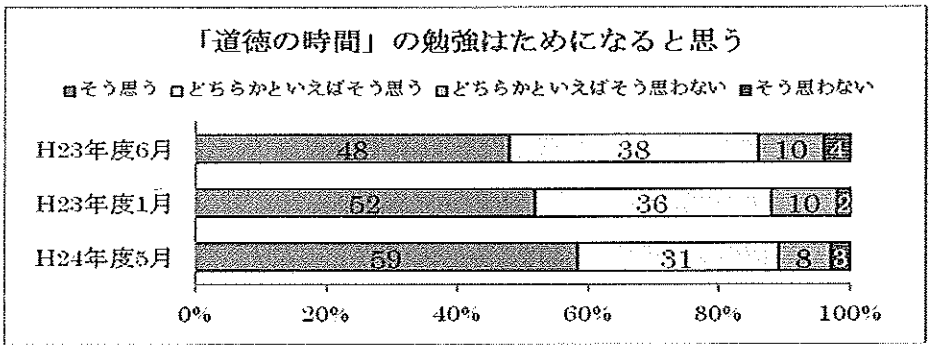
3　研究の評価

(1)研究の検証

①「道徳の時間」について

取組の成果と課題を明らかにするため，次のような質問紙調査を行った。

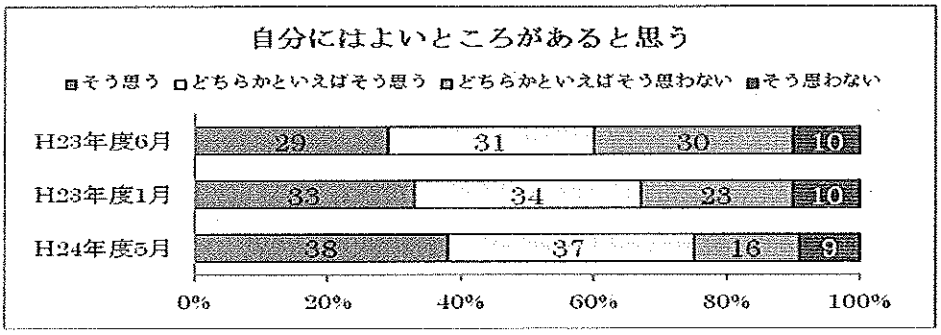


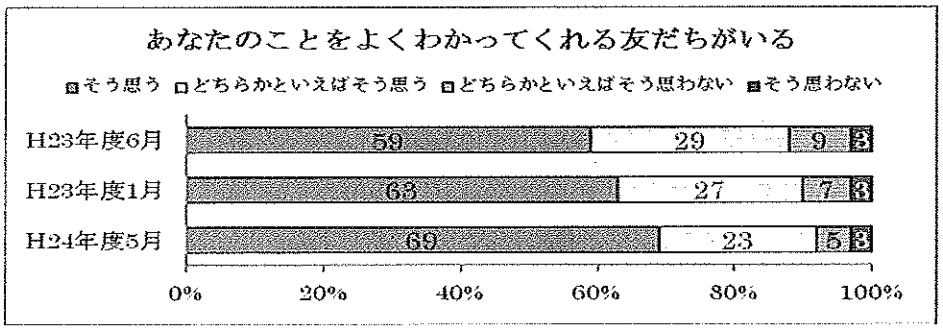


「道徳の時間」に関する質問では，肯定的評価をしている児童生徒が，わずかではあるが，増加している。

また，道徳の時間の勉強は好きと肯定的に評価する児童生徒の割合より，道徳の時間はためになると肯定的に評価する児童生徒の割合の方が高くなっていた。

②自尊感情について

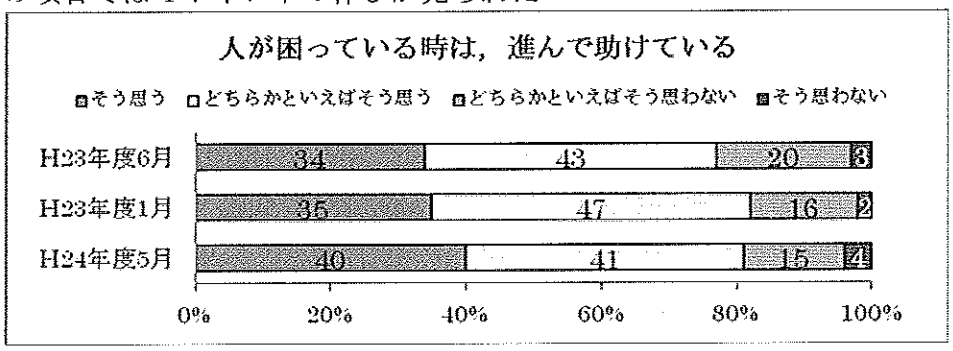


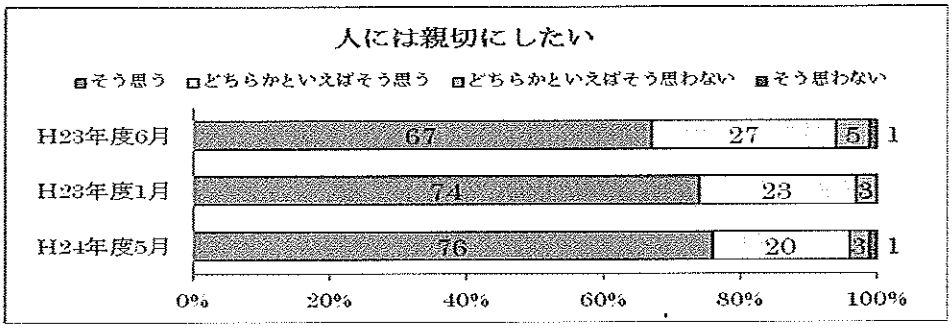


自尊感情に関する質問において，「自分にはよいところがあると思う」では１５ポイント，「あなたをよくわかってくれる友だちがいる」

の項目では４ポイントの伸びが見られた

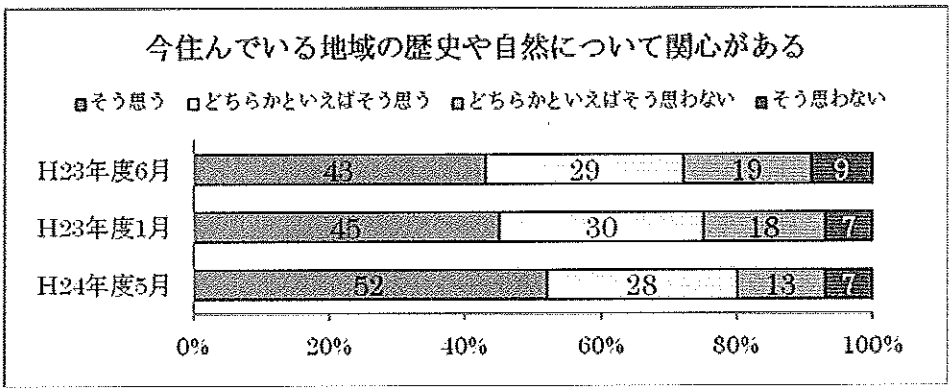
③思いやりについて

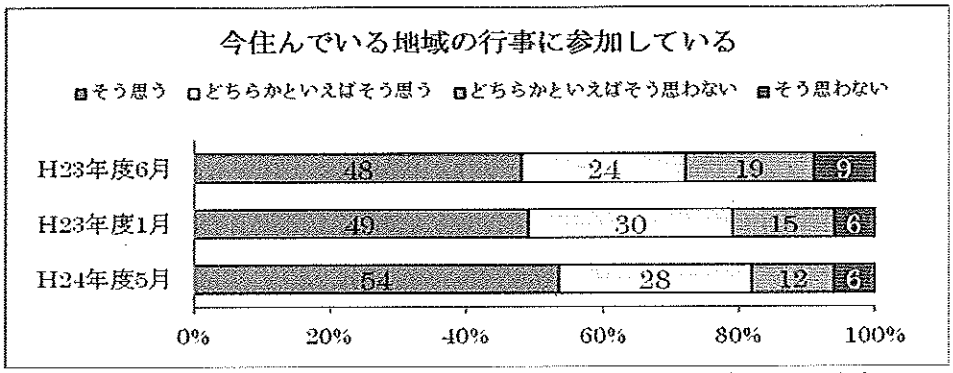




思いやりに関する質問では，肯定的評価をしている児童生徒の割合は，「人が困っているときには，進んで助けている」児童生徒が４ポイント，「人には親切にしたい」という児童生徒が２ポイント，向上していた。

④郷土愛について





郷土愛については，肯定的評価をした児童生徒は８ポイント増加している。「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目で，肯定的評価をしている児童生徒の割合は，１０ポイント増加していた。

（２）成果と課題

【成果】

①中学校区で合同の研修等を行うことで，発達の段階に応じた指導の系

統性を考えることができた。また，小・中学校の教員がお互いに授業参観をすることで，授業改善につながる視点を共有し，実践することができた。さらに，町内クリーン大作戦のような保・小・中・高合同の活動においても，発達の段階を踏まえた事前指導を行うことで，地域のリーダーとしての中学生・高校生の姿を見ることができた。

②各学校において，道徳の時間の充実が図られた。小中合同での資料分析や授業研究を行うことで，特に，中学校において，板書やワークシート等が改善され，児童生徒の思考に深まりが見られるようになってきた。

③地域教材の作成（改善）と活用が図られた。何気なく参加していた地域の祭りに対する児童の意識が，地域教材を活用した学習後では変化し，郷土を誇りに感じるようになった。地域を知り，大切にする気持ちを育てることができる道徳資料として今後も活用していきたい。さらに，教材を作成することで，教職員が資料分析の力を高めることができ，ねらいにせまる授業構成や中心発問を考えることができるようになった。これらのことから，小中５校が合同で資料分析等の研修をする中で，多様な見方ができ，より児童生徒の実態に合った教材を作成することができたことが成果といえる。

【課題】

①アンケート結果を，発達の段階ごとに分析すると，低学年では，はじめから肯定的評価が高く，中学年・高学年では，大きな伸びが見られる。しかし，中学校では，すべての項目において，伸び率が低い傾向がある。このような発達の段階を踏まえた指導の在り方をさらに検討していく必要がある。

（３）今年度の取組

昨年度の成果と課題を受けて，今年度は，特に次の４点の取組を行う。

①小中連携に基づく年間を見通した研修計画を立てるとともに，年度当初，本研究の構想を明確にした全体研究計画を全教職員へ周知し，組織的な取組に繋げていく。また，研究成果を全教職員に還元する研修会も開催するなど，研修体制を工夫していく。

②特別活動との相互の関連を視野に入れ，子どもの自主的な活動を促し，道徳的実践につながるようにする。また，発達の段階に応じた児童生徒の道徳的価値観の変容についての共通理解が重要であると考え，小中合同での理論研修や資料分析を通しての学習指導案検討及び授業研究会を実施する。特に，「思いやり」など３つの道徳的価値については，昨年度の取組を基盤に発達の段階に応じた「育てたい子どもの姿」の系統表の見直しを行い，共通認識に基づく指導を行う。

③地域教材を効果的に活用するため，地域のよさを表面的に捉えるだけでなく，地域に出かけたり，地域と連携した体験活動や総合的な学習の時間と関連させた実践を積み上げたりすることで，人とのつながりや地域の文化に気付かせていく。そして，児童生徒の身近な地域を題材とした自作資料を作成し，地域とのかかわりを深める実践を続けていく。

④共感する力や思いやりの心，協力しあう態度を育て，集団や社会の一員としての自覚と責任を育むために，言語活動を充実させるとともに，道徳の時間の指導過程や指導方法の工夫の研究を行う。そして，地域や保護者の方との連携を大切にして授業づくりを行っていく。併せて「東城版心のノート」の作成と活用に取り組み，内容項目を絞って年間指導計画に明記し，各自が学期に１つ以上作成するようにする。